


輸血部ニュース

15-vol.2 2015年10月26日
 広島大学病院 輸血部 発行：藤井 輝久
 編集：齊藤 誠司
 輸血部内線：5582, 6227
 PHS:2894, 2389

血小板製剤は病棟保管しないで下さい！

・血小板は低温保存では、輸血後の寿命が極端に短くなります。(で示す)

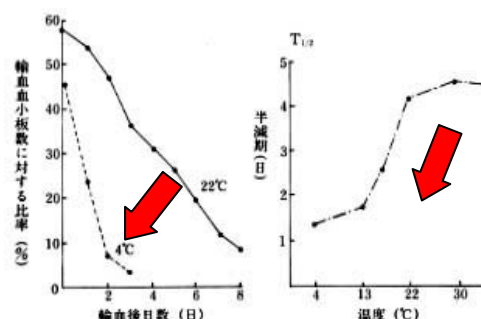
・振盪されていないと、pHの低下に伴い凝集能が低下します。(止血効果が落ちます)

・どの製剤でも長時間の放置は製剤内での細菌増殖のリスクを高めます。

・輸血効果を落とさないためにも、輸血製剤は搬出後、病棟保管は行わず、マニュアルに記載されているように1時間以内に輸血実施して下さい。

・血小板製剤 10単位は約8万円と非常に高額であり、廃棄処分となった際は医療資源の無駄使いとなります。

・病棟へ搬出後、速やかに輸血実施できない場合には一旦輸血部へご返却下さい。



山中, 學 他編: 血小板. 医学書, 254-260, 1991.
より一部改変

血小板製剤の誤保存によるインシデント

事例① 血小板製剤を病棟の冷蔵庫で保管したため廃棄処分となった。

・病棟へ搬送された血小板製剤を看護師が受領したが、主治医に連絡がつかなかったことから当該病棟の冷蔵庫に保管した。

・使用時には6時間以上冷蔵されており、「保管条件が著しく外れていたため」廃棄となった。

事例② ①と同様の事例

・血小板製剤 10単位 2バック (計 20単位) を病棟に搬送したが、化学療法の点滴が行われていたため、すぐに輸血実施できなかった。

・そのため担当医は血小板製剤を病棟の冷蔵庫に保管し、約1時間後、看護師が冷蔵庫に血小板製剤があることに気付いた。

・看護師より検査当直に使用の可否について問い合わせがあり、使用はできないと返答した。製剤は廃棄となり、新たに製剤を取寄せる必要があった。

【今後の対策】各診療科・部門に「輸血療法マニュアル」の周知徹底を再度お願いしました。今後も輸血部ニュースなどにて注意喚起を促していきます。輸血製剤の保管に関する基本的な知識が不足していることから、皆様には今一度マニュアルの再確認をお願い致します。

この記事に関するお問い合わせは
 輸血部内線 5582, 6227 まで